

1000号を迎えました!!

広報もろやま 1000号の歩み

1000号を迎えることができました。昭和41年に1号が創刊され、ました。今回の特集では、広報1000号の歩みをご紹介します。



小高のこちゃん(3歳・基寛)
父・明さん
母・富美代さん
光ゲンジの大ファンの、このちゃんは弟と二人でパラダイス銀河を歌うのが大好き。ローラースケートをするのが夢です。お母さんのことば

わが家のアイドル

現在も続いている「わがやのアイドル」。
第1回は昭和63年4月10日号。

「ぼくらのさくひん」は、昭和53年6月10日号から連載が始まり、平成7年4月10日号に「ぼくらのキャンパス」に名前が変わってからも、平成29年3月1日号まで長く続きました。

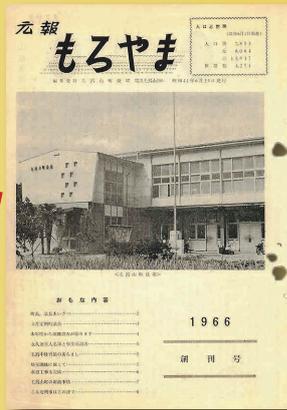


初めてカラーで発行
(平成2年1月10日)



月2回発行になる
(10日発行と25日発行)
(昭和51年4月10日)

広報もろやま 1号!

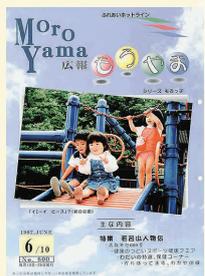


広報もろやま1号発行
(昭和41年6月25日)

「わがやの味」



全200回続いた「わがやの味」。昭和58年4月10日号から始まり、平成11年12月10日号に最終回を迎えました。



平成9年6月10日



平成7年4月10日



昭和62年1月10日



昭和60年1月10日



昭和54年4月10日



昭和41年6月25日

タイトル
変化の歴史



広報もろやまが

広報もろやまは、これまでたくさんの町民の皆さんに支えられ、58年間、様々なリニューアルを重ね、広報紙を作成し続けてき

祝！広報もろやま
1000号！



現在
(令和6年1月1日)



1日発行になる
(平成25年5月1日)

全国広報コンクール
入選！



全国広報コンクール5席
(平成19年8月20日)



月1回(20日)発行になる
(平成16年4月20日)

懐かしのあれこれ

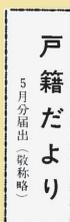


ハガキでどん



毛呂山総合公園プール
無料優待券

戸籍だより



ペット100選

もろやま



今昔

もろやま今昔

現在も続いている「歴史散歩」の原型である「もろやま散歩道」の記念すべき第1回は、平成5年1月10日号。

もろやま散歩道
文化財シリーズ1

出雲伊波比神社

徳和時代の末、正徳3年(1721)の本宮遷座にすんでその名が記される。平安時代の輪郭式神木遺跡では東山宮(現中入間部5塚の南側に残されている。後述)の遷座時、出雲守(神)、実徳宮が、その地を祀る神をまつっている。徳和天皇(醍醐7-13)に東国の奥を討伐するために派遣された日本武尊が戦いに勝つる途中この地に立ち寄り、穴窟から覗いた北の山々を眺めつて神とし、大己貴命をまつて得度長官に命じて創建したがのちまうと買われている。



平成28年4月1日



平成26年4月1日



平成25年5月1日



平成22年4月20日



平成20年4月20日



平成16年4月20日



平成12年4月10日



もろやま町
観光大使
根岸 愛さん



埼玉県
もとひろ
大野 元裕 知事

広報もろやま1000号発行おめでとうございます！
生まれ育った毛呂山町の観光大使をまさか自分が務め
させていただけるとは想像もしていなかったし、こう
して広報紙にお祝いのコメントができてとても嬉しい
です！

自然も豊かで、公園もたくさんあって、スポーツも盛
んで、楽しいお祭りもあって、本当にたくさん良いと
ころがある毛呂山をもっともっと知って欲しいなと思
います。昔から変わらない良さもあれば、イオンがで
きたりどんどん住みやすくなっている毛呂山町にもっ
とたくさんの方が来てくださるよう、私もPRできる
ようもっと活躍していきたいと思います。

1000号も続くというのは本当に凄いことで、これか
らもずっと続いていって欲しいです。

井上町長も言っていました、もう「けろやま」とは
呼ばせないくらい毛呂山町を知ってもらえるようみん
なで伝え続けましょう！

「広報もろやま」が記念すべき1000号の発刊を迎え
られたことに心からお祝い申し上げます。

昭和41年の創刊以来、60年もの長きにわたり、様々
な情報をお届けになり、町民の皆様により添い続けて
おられますことに深く敬意を表します。

超少子高齢化社会への対応が求められるなか、毛呂山
町では、住民一人ひとりが世代や障害の有無に関わら
ず、「健康で幸せに暮らせるまち＝健幸づくりのまち」
を推進され、「毛呂山町健幸づくりのまち」を宣言さ
れました。

埼玉県でも、あらゆる人に居場所があり、活躍でき、
安心して暮らせる社会である「日本一暮らしやすい埼
玉」を目指し様々な施策に取り組んでいます。

今後も毛呂山町とともに、「健幸づくりのまち」と「日本
一暮らしやすい埼玉」の実現に向けて尽力してまいり
ます。結びに、貴紙が住民の皆様により永く愛されるこ
とを祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



かずひさ
厚目 和久さん



久保 きくさん



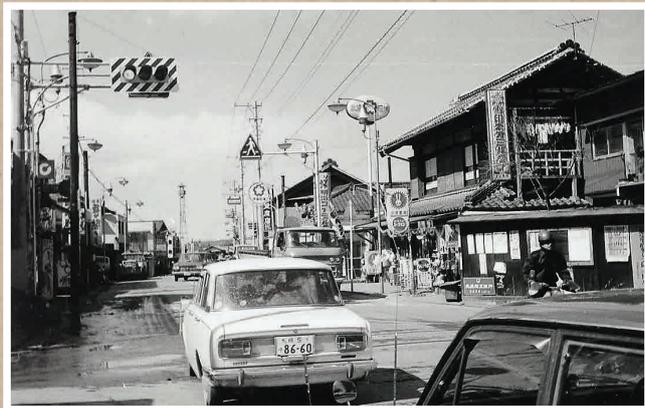
広報1000号おめでとうございます。私は、永年町で様
々な活動をしていた父の背中を見て、自分も町に携わる
ことをしたいと考えるようになり、大人になってからは
消防団や商工会青年部、流錫馬などに関わらせていただ
いています。また、現在は観光協会の理事としても町の
観光に携わっているため、今後は、流錫馬や毛呂山町を
アピールできるように、観光協会としても自分としても
貢献していきたいと思っています。そのためにも広報紙
を通じて、町の些細な出来事でも取り上げ、町を元気に
するため、一緒に頑張っていたいただければと思います。

令和6年1月「広報もろやま」は1000号を迎えられ、
このような記念の年に広報紙に載せていただき、大変
光栄に思っております。「広報もろやま」が発行を重ね
るごとに内容も充実して、毎回楽しみに読んでおります。
令和になって、新型コロナウイルスが国内に入り、感
染者の拡大が続き、たくさんの行動の制限が出たとき
は大変だったことと思います。そんなときでも「広報
もろやま」は多くの情報を私たち町民に教えてくださ
いました。これからも町の情報が正しく町民に伝わる
よう、広報担当の皆様よろしく申し上げます。

過去の広報紙出演者の皆さん

毛呂山思い出写真館

昭和40年代の毛呂本郷の交差点



毛呂山町で一番最初に信号機が設置された場所とされています。

かつては八王子往還毛呂宿の中心として、多くの人や物資の往来を見つづけてきた場所でもあります。昭和8年の八高線の開通により往来の賑わいは徐々に薄らぎましたが、昭和30年代後半からの急速な自動車の普及にともない、町内を走る県道の主要交差点として再び重要度を増し、町内で最初の信号機設置場所となりました。

この当時、川越までの道のりで信号機があるのはこの交差点を含め数か所だけだったといえます。

現在の風景

昭和50年代後半、滝ノ入と阿諏訪地区に跨る鶴ヶ島ゴルフ倶楽部の完成により東西の交通量は増えましたが、県道飯能寄居線バイパス岩井工区が平成15年3月に、葛貫工区が平成24年2月に開通したことにより、毛呂本郷の交差点を南北に通過する交通量は減りました。



あやか
飯村 采夏さん

広報もろやま1000号発行おめでとうございます。
私は二十歳のつどいの際に広報もろやまに載せていただきました。アルバイトで塾の講師をしているのですが、載った後に生徒たちから「先生広報載ってますよね！」とたくさん声をかけてもらいました(笑) 私も小中学生のとき、身近な人が広報紙に載っていたら必ず声をかけていたので、まさか自分がそちら側になると思ってなかったです。今後も毎号誰かいないかなってワクワクしながら広報もろやまを拝見させていただきます。改めて、1000号発行おめでとうございます！



じゅん
竹居 潤さん

広報もろやま1000号ということで誠におめでとうございます。私は以前、大学生のときに町内でのボランティア活動を記事にいただきました。この町で育った私にとって、地元での活動を記事にいただいたことはとても励みになりました。そして、いつかこの経験を通してこの町に恩返しをしたいと思うようになり、大学卒業後は丸木記念福祉メディカルセンターに就職しました。就職した今は、在宅医療に関する出前講座等を企画し町民の皆様にお届けしています。これからもより良い町づくりに貢献できるよう頑張ります。